

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年5月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、5月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（5月分）

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■全面ハルヒメボシ切替えて、はだか麦の増収3割を見込む

- JA周桑は、はだか麦の品種を「ハルヒメボシ」に切替えて2年目。
- 地域農業育成室は、適期播種など基本技術の徹底と、後期重点施肥技術の導入を重点に指導した結果、順調に生育。
- 収穫は、4月の天候にも恵まれ順調に進み、5月29日現在のントリーエレベーターの受入れ数量は2509t（昨年対比132%）で品質もよい。



穂が長く粒張りの良いハルヒメボシ

#### 【参考】JA周桑検査実績

H29年=1,599t（品種は「マンネンボシ」）

H30年=1,961t（品種は「マンネンボシ」から「ハルヒメボシ」へと更新中）

R元年=2,509t（品種は「ハルヒメボシ」）

## 四国中央農業指導班

### ■やまじ王産地化対策検討会

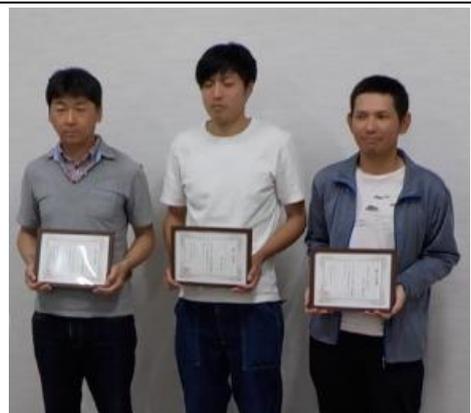
- 四国中央農業指導班は5月21日、やまじ王産地化対策検討会を開催し、昨年の成果を基に今年度からの取組みについて協議を行った。
- 贈答用の中玉生産に向けた施肥量やマルチ栽培の実証、11月から年内にかけて関西や地元スーパーへの販路拡大及び「愛」あるブランド製品の認定を目指す方針となった。
- 今後、指導班では、贈答用向け（丸い芋）が安定して確保できるよう技術実証の設置や技術指導を行う。



## しまなみ農業指導班

### ■JAおちいまばり第1期研修生が就農開始！

- JAおちいまばりは5月13日、JA上浦支店（今治市上浦町）において「えひめ次世代ファーマーサポート事業」の第1期研修生3人の修了式を実施。
- 1期研修生は、同事業を活用した研修園で2年間かんきつ栽培について学び、研修中に農地を確保し、それぞれが「かんきつ（露地+施設）」や「かんきつ（露地+施設）+キウイフルーツ」の体系で営農を開始している。
- しまなみ農業指導班は、栽培技術取得や販路開拓について関係機関と連携して支援し、1期生を地域の中心的な生産者として育成する。



## 今治支局産地戦略推進室

### ■第1回オリーブ特産化推進連絡会の開催について

- 今治支局産地戦略推進室は5月15日、「しまなみ産オリーブ特産化促進事業」に係る第1回オリーブ特産化推進連絡会を、今治市吉海町において、生産者、JA、市、地域おこし協力隊等23名の参加を得て開催した。
- 会議では、今年度の活動計画や栽培技術の実証内容について協議が行われ、出席者からは、担い手の確保に向けた支援の要望や新たな加工品開発やブランド力向上のために品評会出展等の提案があった。
- また、会議終了後、現地のオリーブ園において、香川県小豆島から専門家を招いた栽培研修会も開催し、夏期の栽培管理のポイント等について習得を図った。



オリーブ特産化推進連絡会



栽培研修会

### ■大田市場で今治産花木の販売促進活動を行う

- 今治支局産地戦略推進室では、「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」を活用して、花木の販売促進活動を実施。
- 5月24日、東京の大田市場において今治産花木約1,000本の販売促進活動を行い、仲卸である(株)中央花卉の協力のもと、今治産花木を用いたディスプレイの展示を行うとともに、ビブルナム・ティナス、ピットスポラム、ブラックベリーの対面販売を行った。
- また、卸売会社の(株)大田花きの販売担当者を対象に、産地の花きに関する評価や要望について調査を行ったところ、近年はグリーンの花材が人気であり、ピットスポラム等の生産拡大の要望があった。



販促活動



今治産花木を用いたディスプレイ

### ■花木の出荷促進研修会を開催

- 産地戦略推進室は5月31日、大阪の花き卸売会社「(株)なにわ花いちば」と仲卸「(株)花菊」を講師として、花木の消費動向と使い方についての研修会を行い、花木生産者、今治南高校生、JA、市町関係者等41名が参加した。
- 卸売会社からは、近年、花木の葉を活かしたグリーン主体のアレンジが人気であり、多くの量を継続的に出荷することで、産地の認知度を高めていくことが重要との情報があった。
- 仲卸からは、今治産花木を用いたアレンジの実演があり、花木の活用の仕方を学んだ。
- 生産者は、花木需要が多いことと、どのような品質ものが必要とされているかを知ることができ、高品質花木の出荷量拡大に向けた意欲を高めた。
- 県からは、斑入りのティナスやグリーンのメラレウカなど新たな花木の導入について提案を行い、花木産地としての優位性の向上に努めた。



研修会の様子



新品種の提案

## 中予地方局地域農業育成室

### ■伊予柑の超省力栽培推進について、関係者で意識共有

- 地域農業育成室は5月24日、「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」に係る第1回検討会を開催。管内JA、市、研究機関、中予局の関係者24名が参加した。
- 当日は、室内で事業内容や今後のスケジュールについて検討した後、松山市福角町のモデル園に移動し、現地確認と併せて防除用ドローンの飛行デモンストラーションを行った。
- 今後は、モデル園での技術実証やドローン防除の効果確認、画像解析式家庭用選果機の実証などに取組み、超省力化栽培技術の確立と普及を図る。



モデル園でのドローン飛行

### ■被災園地の営農指導方針を関係者で検討

- 地域農業育成室は5月16日、被災園地の営農指導に係る打合せに参加し、管内JA、松山市の合計8名で、今後の方針について検討した。
- 出席者は4月中下旬に、島しょ部の被災園地を分担して巡回。今年は着花量が多く、天候に恵まれて生理落果が少ない見込みのため摘果指導を徹底することや、7月中旬と8月下

旬に再度巡回すること、指導マニュアルを作成することなどを申し合わせた。

- また、高浜の復旧モデル地区については、24日にワーキングチーム会を開催し、JAえひめ中央、松山市、中予局の関係者21名が参加。今年度中に定植可能となる園地（予定）での、省力的で未収益期間の短い栽培方法を検討するなど、営農再開に向けた指導方針について意識統一を図った。



被災園の巡回調査(興居島地区)

### ■「米ぬかバンク」の設置で有害鳥獣の捕獲用エサを確保

- 東温市奥松瀬川地区では、恒常的な有害鳥獣捕獲用のエサを確保するため、「米ぬかバンク」を設置した。
- 当地区では、農作物等への野生鳥獣被害を減らすため、集落が主体となり有害鳥獣捕獲を実施しているが、エサとなる米ぬか等の調達は捕獲従事者に委ねられており、恒常的なエサの確保が課題であった。
- 地域農業育成室は、集落住民が持ち寄った米ぬかを捕獲従事者が自由に活用できる仕組みを提案。住民へ呼びかけを行った結果、本年度より「米ぬかバンク」として、公民館裏に設置されるに至った。
- 今後は集めた米ぬかを活用し、効果的な有害鳥獣捕獲を実施するための技術支援を行っていく。



集落住民が自由に持ち込める「米ぬかバンク」

## 伊予農業指導班室

### ■中山栗産地力向上に向けてプロジェクト会発進！

- 伊予農業指導班は5月9日、中山栗プロジェクト会議を開催し、昨年度の実績報告や今年度の年間スケジュール、モデル園の設置及び実証内容等について検討した。
- 昨年のモデル実証圃では、①適期農薬散布 ②緩効性肥料の施用 ③低樹高剪定 ④収穫の省力化について実証し、平均収量が167 kg/10a（前年107 kg/10a）と産地全体が不作の中、一定の収量を確保できた。
- 今年度は、新たに「新植モデル実証圃」を設置し、除草対策の徹底等による早期成園化を目指すとともに、地元の林業関係受託組織と連携した園地整備の仕組みづくりについて検討する。



栗の産地力向上プロジェクト会議

### ■七折小梅の安定生産への試み

- （農）ななおれ梅組合は、収穫前の5月21日に目揃会を開催し、出荷者全員に対して出荷規格と選果の徹底を図った。
- 今年の七折小梅は、品質が良好で小粒果が少なく、正品率も高いが、出荷量は昨年の半分程度の約40tとなる見込み。
- 伊予農業指導班は、近年、七折小梅が豊作と不作を繰り返し生産量が不安定なことから、基本的な土づくりの実施や老木の改植を進めるとともに、果樹研究センターと連携して、受粉環境の実態と収量について調査を行い、不作要因の解析を行う。



出荷規格を確認する生産者

## 久万高原農業指導班

### ■トマト部会青年部が細霧冷房について学習

- 久万高原農業指導班は5月27日、久万高原トマト部会青年部会員15人に対して、細霧冷房の効果と今後の取組みを説明。
- これは、青年部の定例会に併せて開催したもので、若手生産者からは、盛夏期における高温及び乾燥による障害対策として期待できるとの意見が多く聞かれた一方、導入経費が高額（約200万円/10a）との慎重な意見もあった。
- 指導班では、今年度、最適な使用方法（噴射量と間隔）や農薬散布への活用、費用対効果などを検証することとしている。



細霧冷房の効果を説明する普及員



作動の様子を見学する若手トマト生産者

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■中島サーモンの試食販売は大盛況

- 産地戦略推進室は水産課と協力して「中島サーモン」（生食）の試食・販売イベントを、5月18、19日の2日間、生産者2名とともに、松山三越、フジグラン松山、フジグラン重信、エミフルMASAKIの4店舗で開催。
- 今年で2回目となる水揚げでは、4kgを超える大型魚体もみられるなど成育は極めて良好。約1.3t（564尾）が出荷され、中予地区の他の量販店20店舗でも店頭販売が行われた。
- 試食の評価は高く、「新鮮で特に食感がよく、美味しい」、「地元産、松山ご当地サーモンとして好感が持てる」などの声が多く聞かれ、イベント実施4店舗の2日間の売上は約100万円（前年約34万円）と好評を博し、多くの消費者に「中島サーモン」をPRした。
- 販売を行った店舗では、大きさ・品質ともに高評価で、販売拡大に向けた期待も大きいことから、生産・販売体制の整備に向けた支援を継続することとしている。



中島サーモンの試食販売

## 南予地方局地域農業育成室

### ■農業次世代人材投資事業に係る現地ヒアリングの実施

- 地域農業育成室は5月10日～17日にかけて、宇和島市と連携して、農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用している交付対象者54名に対し、就農状況確認等の現地ヒアリングを実施。
- その結果、交付対象者の多くは経営目標の達成に向けて概ね順調な経営状態であった一方で、平成30年7月豪雨災害の影響もあり、目標収量、所得に到達していない対象者も確認。
- 地域農業育成室では、栽培技術や経営能力の向上を目的とした講習会を通年で開催し、早期の経営安定、地域農業への定着等を常にサポートするとともに、収量や品質の回復等が必要な対象者に対し、被災園地に代わる代替園地の確保、夏季の栽培管理指導を実施し、経営改善を支援する。



対象者との現地ヒアリングの様子

### ■吉田町認定農業者連絡協議会が先進事例調査し農業経営向上に生かす

- 地域農業育成室は5月8日、吉田町認定農業者連絡協議会と連携して、労働力不足の解消や吉田町のみかん販売戦略を作成するため、八幡浜市の先進事例調査を実施。
- 当日は、みかん収穫アルバイト等の宿泊施設「マンドリン」、農産物の販売会社「匂香物産株式会社」、高品質多収穫栽培を実現している篤農家と意見交換した。
- 参加者からは、「アルバイトの受け入れ方法等について地域で考えてみたい。」、「マルドリの導入を検討してみたい。」との意見があった。



対象者との現地ヒアリングの様子

### ■源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会を設立

- 地域農業育成室では5月9日、「高級菓子用くだものの育成・ブランド開発事業」の一環として、県、宇和島市、松野町、鬼北町、JA えひめ南及び(株)源吉兆庵関係者で組織する「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を設立。
- 昨年2月に源吉兆庵宇和島工場が本格的稼働したことを受け、安定した供給体制を確立するために(株)源吉兆庵との情報共有を図るとともに、これまでの縦割りの品目対応（宇和島市：かき・びわ、松野町・鬼北町：もも・くり）から横断的な取組みを進め、安定的な供給体制を図ることが狙い。
- JA えひめ南担当者等から各品目（もも・くり・かき・びわ）の生産状況と問題点について報告と意見交換がなされ、生産拡大や高品質安定生産に向け認識を新たにした。



源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会

## 鬼北農業指導班

### ■「吉兆桃園」(新植モデル園)の生育調査を実施

- 鬼北農業指導班は、新規就農者等と昨年12月に設置した加工用桃の新植モデル園において、新梢や根の伸長状況等を調査するとともに、新梢の誘引作業を行った。
- 同園は、生育が不良となっていた圃場であったため、バックフォー等を利用して高畝に造成するとともに、明渠及び暗渠等を設置するなどし、徹底した排水対策と土壌改良が行われている。
- 指導班は、地元農業者や農業法人等に対し、モデル園の排水対策及びその効果等を紹介するなどし、加工用桃の栽培面積の拡大を推進する。



誘引支柱を立てる生産者と若手普及員



根域の掘取り調査

### ■食用鬼灯(ほおずき)の新たな整枝法への挑戦!

- 鬼北地域は「鬼」にちなんだ食用ほおずきの栽培が試みられているが、地域に合った栽培技術がまだ確立されていないため、収量が確保されていない。
- そこで、鬼北農業指導班は、ほおずきがナス科の多年草で生育旺盛であることから、雨よけハウスを利用し、2つの新たな整枝法検討。
- 1つ目は、なす栽培において秀品率向上と収穫の省力化が図れる一文字型整枝法、2つ目はきゅうりやトマトの長期獲りに適している吊り下げ誘引整枝法である。
- 指導班は、普及性をみるため、収量、品質調査を行いながら、圃場展示会も開催する計画。
- また、生産者圃場においても、防虫ネットを使用した難防除害虫の防除実証や新たな整枝法の実証に取り組んでいる。



ほおずきの整枝法の実証圃

## 愛南農業指導班

### ■河内晩柑の長期貯蔵に取り組む

- 愛南農業指導班は、7～8月の果実販売実現に向け「夏季販売仕向けかんきつ品質安定化事業」を活用し、河内晩柑の長期貯蔵に取り組んでいる。
- 昨年の試験結果では、マイナスイオン発生機を使用することで、腐敗果を一割程度抑制したことから、今年は低温貯蔵庫にイオン発生機を組み合わせた貯蔵試験を、5月中旬より

開始。

- 一層の商品性向上が期待されることから、7月下旬より高値販売を目指し、地元の道の駅や農産物直売所を活用した試験販売を実施する。

### ■ブロッコリーの高収量栽培管理マニュアル作成に向けて

- 愛南農業指導班は、ブロッコリーの産地化のため、生産者の栽培技術の向上を指導しており、その一環として、反当1 t以上の生産や高単価の実績がある生産者から、時期別の栽培管理の要点、注意点等の聞き取り調査を実施。
- 調査結果を基に、指導班が実施したトンネル栽培の実証データや、既存の栽培指針等も組み合わせ、新たな高収量栽培管理マニュアルを作成。
- 7月下旬を目途にマニュアルを作成し、既存生産者への配布や新規栽培希望者への指導資料として活用する。



聞き取り調査を行う普及員

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■うめの里の再興に向けて関係者で意識統一

- 産地戦略推進室は5月29日、(株)松野町農林公社において、松野町梅振興会、(株)松野町農林公社、松野町、県南予地方局で構成する「うめの里再興検討会」を開催し、昨年度の活動結果や今年度の活動計画について協議し、関係機関・団体が連携してうめの里の再興に取り組むことを確認した。
- 当日は、昨年度から検討してきた「うめの里まつの再興ビジョン」を了承するとともに、各機関・団体が関係者へビジョンを周知し、一丸となってビジョンを推進することを決定した。
- さらに、今年度は、「新たな果樹産地づくり推進事業」を活用し、「昔ながらのうめ干し」などの商品化、うめのPRを目的とした加工体験会の開催、新規栽培農家の確保などに取り組む。



うめの里再興検討会

### ■河内晩柑の魅力発信に向けて関係者で情報共有を図る

- 5月15日、南予地方局において「河内晩柑魅力発信協議会」を開催し、活動計画について意見交換し、「河内晩柑魅力発信事業」を活用して、河内晩柑の魅力を伝えるロゴの作成や果皮の加工利用の促進に取り組むこととした。
- 産地戦略推進室が、インターネットにおける「河内晩柑」の注目度を分析したところ、平成22年6月に愛南町の農業法人が全国放送されたときに最も注目を集めていたことから、マスコミへの積極的な情報提供によって河内晩柑の魅力を発信していくことを提案した。



河内晩柑魅力発信協議会

## 西予農業指導班

### ■女性の役職登用進む 西予市で「女性の農地利用最適化推進委員」誕生！

- 西予農業指導班は、個性と能力を發揮する男女共同参画社会の実現に向け、方針決定の場への女性の積極的登用を支援している。
- 農業関係の各種会合において、女性の登用促進について働きかけた結果、西予市農業委員会の農業委員等の改選において、農業委員、推進委員に女性が1名ずつ登用され（推進委員は今回新規で認定された）、女性の役職登用が進んだ。
- 農業委員・推進委員の役割の1つには「家族経営協定の推進」があり、今後は女性農業委員等とも連携しながら、家族経営協定書の締結推進を図っていく。
- あわせて、他の役職においても、更なる女性の役職登用に向けた支援を行う。

## 大洲農業指導班

### ■ぶどう産地力向上に向け活動開始

- 大洲農業指導班は5月17日、JA愛媛たいき内子支所にて地方局予算事業「ぶどう産地力向上促進事業」の第1回検討会を開催し、昨年度の実証結果の報告と今年度の実証計画の検討を実施した。
- 昨年度のピオーネの着色促進実証では環状剥皮の効果が、シャインマスカットの果実袋の比較では茶色袋で果皮障害が多く、冬季出荷に向けた低温貯蔵実証では、フレッシュホルダーと果実袋の組み合わせが品質保持効果が高いことを報告。
- たいき農協から年末の試験販売において、販売単価がハウス栽培ものを上回ったことやシャインマスカットの一部園地での開花異常の報告があった。
- 今年度は、昨年の実証での問題点を解決するための再実証と新たに植物調節剤による肥大促進実証、さらに、果樹研究センターと連携しシャインマスカットの開花異常の原因究明を行い、その結果をもとに栽培マニュアルを作成し、ぶどう栽培技術と産地力の向上を図る。



検討会の様子

## 八幡浜支局産地戦略推進室

### ■ニラ生産拡大に向け防除等の管理技術を徹底

- 産地戦略推進室は5月15日、高品質安定生産を目的としたニラ栽培講習会をJAひがしうわ城川支店で開催。
- 当日は、ニラ生産者8名が出席し、育苗から収穫までの栽培管理と病虫害防除について研修を行った。
- ニラ栽培経験年数が短い生産者が多く、病虫害防除については個人任せであるため、今回、定期防除指針を策定し定植時からの防除を徹底するよう指導した。
- 今後は、城川地域の気象条件に合わせた防除体系に随時改定し、安定生産を推進する。



## ■甘平の輸出拡大を促進

- 産地戦略推進室は5月14日、ブランド戦略課、JAにしゅうわ、生産者と甘平の台湾輸出拡大について検討。
- 台湾で使用できない農薬があるため、防除暦をもとに代替農薬使用について意見交換。
- 今年度の春節は1月25日と昨年度より11日早いため、出荷時期・QS規格等について取組を協議。
- 昨年度の2人に加え、新たに2人の希望者を含めた4名が、今年産輸出甘平の生産に取組むことになった。



## ■世界マーマレード大会における農業関係PR

- 産地戦略推進室は5月12日から19日にかけて、八幡浜市で開催された「ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」において、日本農業遺産、愛媛産農産物PR、新品種育種・研究のパネル展を開催。
- 子ども連れの見学者も訪れるなど好評のため、本大会は今後2年間継続して開催される。



「みきゃん出張所」オープニングイベント



英国大会主催者らも、パネルに関心を寄せる

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543